

今福線現地視察会（大津地区土木委員会）報告

小村 晃一

1. はじめに

出雲市大津地区に在る、斐伊川放水路に隣接する「来原遺跡」が土木遺産に平成26年度選奨されました。平成27年6月20日には記念式典も盛大に開催されました。その来原遺跡の利活用の参考にするため、「今福線のコンクリートアーチ橋群」（平成20年土木遺産選奨）の視察会を大津地区土木委員会にて冗談半分で提案したところ、即採用され、段取りする破目になってしまいました。平成22年から始めた今福線研究分科会で活動した報告とあわせて参加者に説明し、こんな機会は滅多にないと、皆様に大変喜んでいただきました。ボランティアガイドを快く引き受けていただいた石本様には、地域の取り組み状況を合わせて説明していただきました。

2. 視察会概要

日 時 : 平成27年 11月6日 (金)

コース : 大津コミセン出発 (8:00) ⇒江津道の駅 (休憩) ⇒宇津井地区橋脚群～4、5連アーチ橋 (10:30～11:00) ⇒佐野地区 おろち泣き橋 (11:10～12:00) ⇒リフレパークきんたの里 (昼食、懇親会 12:20～15:00) ⇒江津道の駅 (休憩) ⇒大津コミセン着 (17:30)

3. 視察状況

大津地区自治会役員、出雲県土の坂本工務部部長他2名 出雲市職員4名にも参加していただき、総勢27名で出かけました。すべての箇所で石本様にガイドをしていただきました。大型バスでしたので旧佐野小学校から歩いておろち泣き橋へ。お年寄りがおおかつたのにもかかわらず、皆さん積極的に回られ、満足された様子でした。石本様の適切な段取り、とても軽快に歩く姿を拝見し、参加者の皆様は感心しきりでした。主な遺跡の廻りは綺麗に伐採されて、以前より発見しやすく、主要ポイントすべてに案内看板が設置してありました。

私たちが雑草の中を最初に発見したときの感動は少なくなりましたが、この地域の大切な遺産だと理解できる環境に整えてありました。自然との融合、調和を考えるとどの程度の伐採、整備の方法は今後の課題だと受け止めました。特におろち泣き橋に関して言えば河川整備によりかなり伐採されていて川面が全て見えていました。よって おろち泣きする場所が変化していて山側に移動しています。

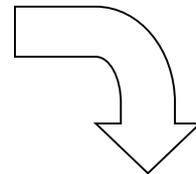
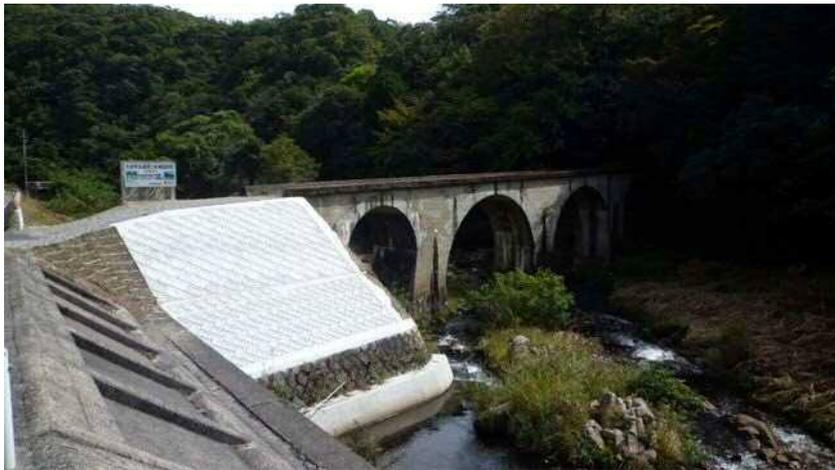
時間の都合上とバスの通行が厳しい道路なので、「鉄らくの道」見学は断念しました。しかし、それでは残念と石本様が、新線と旧線の橋梁が並行する位置の写真に参加者に配っていただきました。



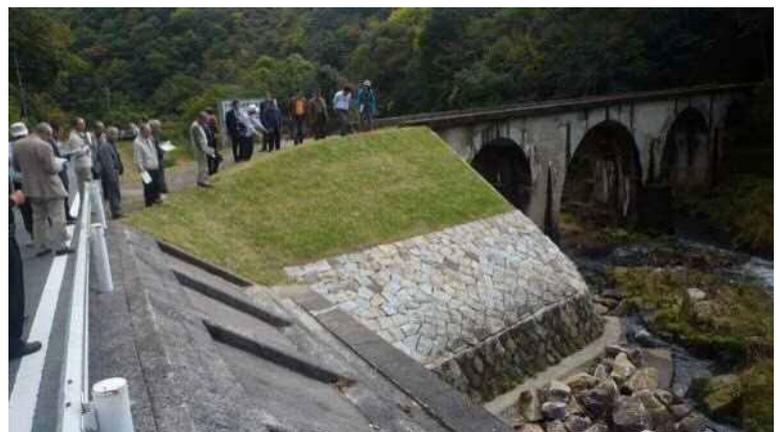
今福第一トンネルには登り易く整備されていて眺望がよくなっています。

宇津井地区橋脚群にて

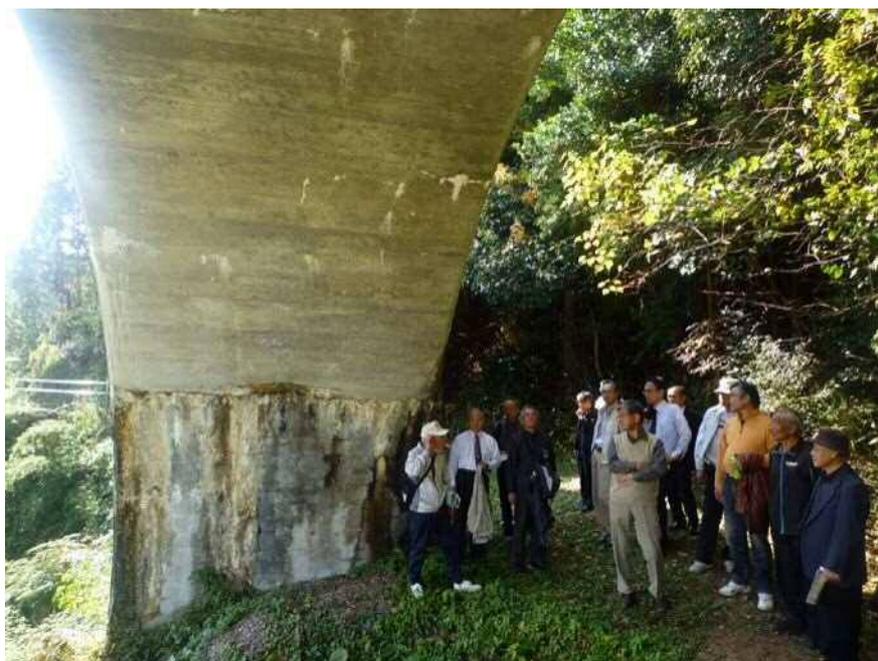




災害復旧後の景観に無配慮だった護岸が緑化されていることを説明しました。



今福第四トンネル～1連アーチ橋 区間



おろち泣き橋での説明

4. 最後に

分科会で培ってきたことが、地元の活動につながり、浜田市あげでのシンポジウムが開催され、観光資源として花開くところまで到達しました。大げさに言えば、島根県技術士会始まって以来の成果であると思います。当初、地元民には全く理解されず、予算がないから何もならないと突っぱねられていたことを懐かしく思います。これで、分科会の役目は一応終わり、地元がさらに観光資源として利活用されていくことを望みます。(今後は見過ごしている県内の土木遺産的価値のある構造物を発掘したい。)

地元土木遺産の価値を認識してもらうことが最も重要であり、来原遺跡の活用も、まずそこからという思いを抱き、価値ある視察会であったと感じました。今後、自治会（おおつまちづくり委員会）にて、利活用方法を検討することになりました。

